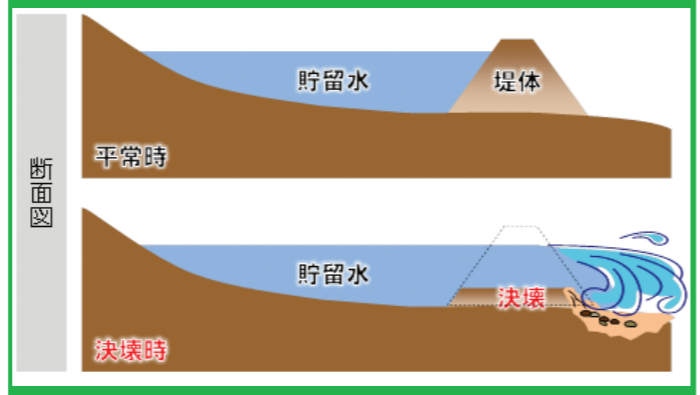
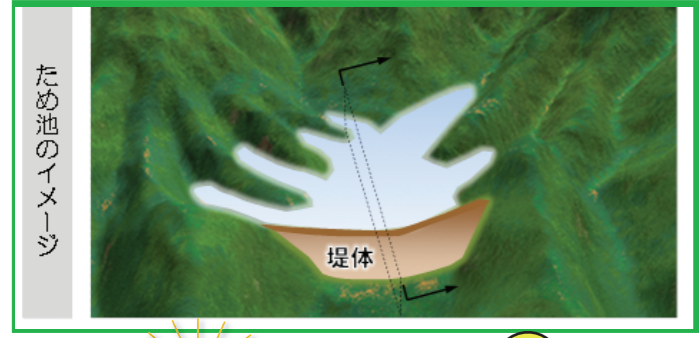


生駒市ため池ハザードマップ (大池)

～地震時の堤体決壊による浸水被害予測～

1 ため池の決壊に備えて

多くのため池は、谷の一部を堤体でせき止め、貴重な農業用水を貯めています。万が一にも堤体が決壊すると、貯留水が一気に下流に向けて流れ出します。東日本大震災の教訓を踏まえて、あらゆる事態を想定しておくことが重要です。

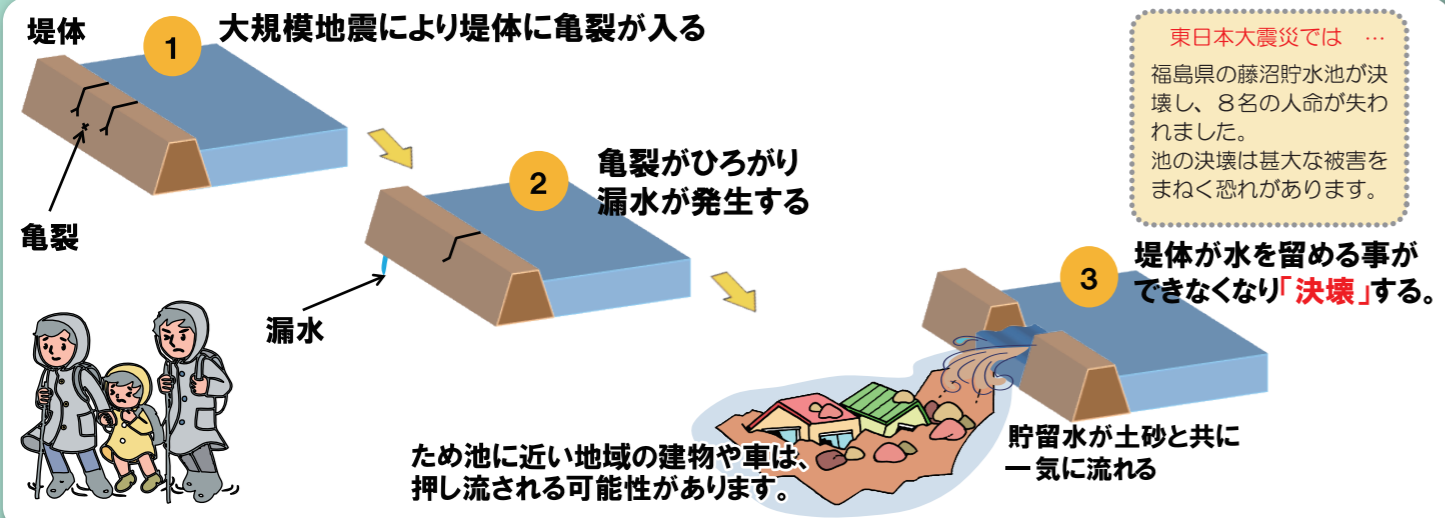


このマップを参考に、どこに逃げるかを事前に考えておきましょう。



2 もしも、地震でため池が決壊したら？

大きな地震によって、万が一にもため池の堤体が決壊した場合、一度にたくさんの水や土砂が下流に向けて流れ出します。ため池に近い場所では、水の流れが速く、押し出す力も強いので、建物や車でさえも流される可能性があります。水の流れが毎秒1メートルを超えると、50cmの水深でも立っている事が出来なくなります。すみやかに避難しましょう。



東日本大震災では... 福島県の藤沼貯水池が決壊し、8名の人命が失われました。池の決壊は甚大な被害をまねく恐れがあります。

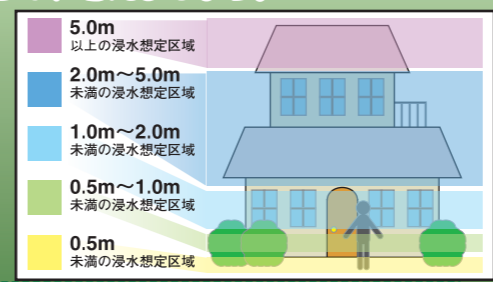
3 ハザードマップの使い方

大きなゆれを感じたら、まずは避難を！

ため池の亀裂や漏水などの異常を発見した場合、地域の安全のために連絡しましょう。生駒市役所 地域活力創生部 農林課 0743-74-1111 (代表)

【1】地震の前にしておくこと

- 1 このハザードマップで、ご自宅の場所を確認しましょう。
2 次に、ため池の場所を確認しましょう。
3 ため池の決壊による「浸水範囲」と「浸水深」を確認しましょう。
4 ご自宅が浸水する可能性があるかどうか、考えましょう。



大量の土砂と水が一気に流れ出てくることを想像しましょう。流れに巻き込まれてはまず助かりません。

- 5 ご自宅が浸水する可能性がある場合、一時避難場所(緊急的に命の安全を確保できる場所)への避難ルートを考えましょう。

ため池が決壊したら、早い場所では数分で決壊流が到達する可能性があります。できるだけ早く、かつ安全なルートを選ぶ必要があります。まずは命を守ることを最優先に考えます。

- 6 一時避難場所から、指定避難所(避難所生活が送れる場所)へのルートも考えておきましょう。

自宅以外の普段過ごす場所についても考えてみましょう。家族で話し合い、事前に避難場所を決めておきましょう。

【2】地震発生後の注意事項

- 1 まずは命の安全を！ 地震が起きたら、まず身の安全を確保してください。
2 二次被害の防止(可能であれば) 火元を確認し、消して下さい。可能であれば、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓をしめてください。外に出るときは歩きやすい靴を履くようにしましょう。

- 3 避難時の注意 避難経路は様々な危険が想定されます。橋は極力渡らないように、一時避難場所を目指してください。夜間は懐中電灯を持って足元を確認しながら避難しましょう。ため池が決壊してから避難しても、間に合わない可能性があります。大きな揺れを感じたら、まず避難！

- 4 助け合い 近所の方や、一人暮らしのお年寄りなど、助けが必要な方にも声をかけてあげて、皆さんで避難してください。

※ このハザードマップは、地元自治会 役員の皆さまや、水利組合の方々とともに作成しました。

問い合わせ 生駒市役所 総務部 防災安全課 地域活力創生部 農林課 0743-74-1111 (代表)